

1995年度 支部 総会 開催



1995年度の(株)日本建築構造技術者協会関西支部 通常総会が、5月29日13:30~14:30建設交流館8階グリーンホールにて開催された。

総会では1994年度の活動報告および1995年度の活動方針について審議が行われ、満場一致で本年度の方針が採択された。

・支部総会

日時 1995年5月29日(月)
13:30~14:30

会場 建設交流館8階グリーンホール

出席者 正会員:46名 委任状:277通

司会 大和田精一

議長 川村佳則

書記 近藤一雄

議事 ①定足数の確認

②支部長挨拶

③議長選出

④1994年度事業報告及び

決算報告

⑤監査報告

⑥1995年度支部役員選出

⑦1995年度事業計画及び
予算計画

⑧新支部長挨拶

・定例研究会

パネルディスカッション・『阪神大震災からの提言』

日時 1995年5月29日(月)
14:30~17:00

会場 建設交流館8階グリーンホール

参加者 190名

パネラー

SRC造 福山大学工学部建築学科
教授 南 宏一先生

S 造 竹中工務店 丸岡義臣氏

RC造 大林組 八木貞樹氏

Pc,Pca造 不動建研 土居健二氏

基礎構造 日建設計 棚橋秀光氏

グリーンホール満席に近い参加者を得、各パネラーの方々によりOHPを用いての詳細な震害報告をいただきました。

本来ならば、この報告の後参加者を交えてのパネルディスカッションに移る予定にしていたのですが、予定の2時間30分はあっという間に過ぎ、時間切れとなつてしまい、ディスカッションを行う事が出来ませんでした。震害に対する参加者の興味の深さを感じつつ技術委員会としては、又別の機会を設け開催する事を約束して閉会となりました。

・懇親会

総会、定例研究会終了後同館702号室にて懇親会が開かれ、来賓の山田稔先生、野中泰二郎先生、南宏一先生をはじめ、正会員、賛助会員74名の出席のもとになごやかなひとときを過ごしました。



支部長就任に

あたって

真塚 達夫

この度JSCA関西支部長に御推挙頂き、就任いたしました真塚でございます。初代久徳支部長・二代目青柳支部長に続きまして3代目でございます。何分にも立派な先輩諸氏をさしおいて支部長とのことでございますが、東京の本部の理事も若返りの予定であると聞いておりますし、関西支部も大幅に若返りを計るということでございます。特に若さあふれる事務局の皆様と共に支部運営を活性化させるよう心掛ける所存でございます。どうかよろしく御指導、後鞭撻の程をお願い申し上げます。

本年の電通総研のキーワードは「動く」ということであつたかと思つています。戦後50年の節目で停滞する経済環境・社会環境を打破する為に、とにかく動詞「動く」がキーワードということでありました。新年早々の1月17日に、まず、最初に地殻が動く「大地震」が神戸に発生し、予想をはるかに超える大被害をもたらしました。建物の安全性を日頃の仕事としております我々にとりまして、自然の力の偉大さをまのあたりにみせつけられました。構造物の安全性が建物の快適性のまず第一にあげられる条件であることが、市民の心に大きく焼き付いたものと思つています。構造専門家として各種団体にボランティアとして参加され活躍された皆様にも、構造家としての大いなる使命と誇りをお感じになられたものと思つ

ます。構造技術者協会メンバーの皆様が、これからの本格的な復興にむけて大いにその場を得て、社会的使命をはたされるよう期待します。

たとえば社会の基盤施設が、今回の直下型地震の今迄の予想をはるかに超える力に対してでも十分機能が発揮出来るよう設計・監理し、かつ地球環境をふまえて有効適切に資源を活用していくことが、我々に課された使命であります。

今まで事務局長を永らく努めていただきました俣野さんが入院加療中とのことですが、一日でも早く回復されることをお祈りしますと共に、これ迄の数々の活動の成果をご教示願ひ、各委員会新事務局の皆様と共に精一杯がんばる所存でございますので、重ねてよろしく応援をお願い申し上げます。

1994年度関西支部事業報告**A 総会**

平成6年度支部総会 5/25

B 支部役員会

3回開催 4/21,7/27,9/27

C 懇親会

1回開催 5/25

D 委員会

- (a)広報委員会 3回 4/20,7/6,10/5
 (b)技術委員会 1回 11/2
 (c)事業委員会 1回 4/13
 (d)海外研修会反省会 1回 8/26
 (d)海外研修企画会議 1回 11/8
 (e)技術委員会分科会
- ・RC分科会 1回 1/12
 - ・PC・工業化工法分科会 3回 5/19,7/21,9/22
 - ・鉄骨分科会 2回 10/6,12/6
 - ・基礎分科会 5回 4/5,6/7,8/3,10/4,12/6
 - ・耐震設計分科会 5回 5/31,7/26,9/20,9/27,11/29

セミナー「耐震設計に関する研究者との実務家の接点について」

講師 大阪大学 井上 豊 教授
 9/27 於 北浜ビジネス会館
 参加者 分科会委員 18名

- ・コンピュータ分科会 3回 6/14,8/24,11/29
 - ・木構造・構造計画分科会 3回 7/12,12/7,12/12
- 見学会 松蔭中高体育館, 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 12/7

E 公演及び講習会

- ・講演会 「最近のRC造の問題点について」
 講師 京都大学 森田 司郎教授
 11/22 於 京大楽友会館
 主催 京滋会 参加者25名 (懇親会23名)

F 定例研究会

- (a) 第7回海外研修会 「ギリシャ建築事情視察」
 ーラーメンの原点を訪ねてー
 6/11~6/19 参加者27名 (説明会 6/2)
- (b) 定例研究会 「建築家とのかかわり」
 ー身近な建物の設計を通じてー
 5/25 於 建設交流館 参加者 75名
 主催 構造計画分科会
- (c) 現場見学会
 ・同和火災フェニックスタワー (制振装置)
 11/17,18 参加者 108名

G 支部報

Structure Kansai 5回発行
 No40, No41, No42, No43, No44

H 書籍出版

エンゲル氏 (独) 「STRUCTURE SYSTEMS」の翻訳
 本「空間デザインと構造フォルム」出版
 主催 構造計画分科会有志

I 対外協力、協賛

- (a) シンポジウム 「免振構造」
 ーノースリッジ地震で確かな手応えー
 10/20 於 大阪府建築健保会館
 主催 日本建築学会近畿支部
- (b) 建築関連12団体会長午餐会 7/1 於 大阪ガスビル
- (c) 建築関連12団体合同新年交礼会 1/4 於 マイドーム大阪

J 親睦会

- (d) ゴルフ同好会
 第21回 5/17 於 加茂C.C 参加者 46名
 第22回 11/15 於 加茂C.C 参加者 37名
- (b) 囲碁同好会 11/26 於 囲碁サロン爛柯 参加者 11名

K 1995年度 支部推薦 本部理事候補、他

- ・本部理事 真塚 達夫、俣野 博、馬瀬 芳知
 板垣 勝善
- ・本部監事 長田 正雄

1995年度関西支部事業計画

1. 平成7年度支部総会 5/29 開催

2. 定例研究会

- ・パネルディスカッション 「阪神大震災からの提言」
 5/29 開催
 司会 松谷 輝雄(鴻池組), 内田 直樹(日建設計)
 パネラー 丸岡 義臣, 八木 貞樹, 土居 健二, 棚橋 秀光
 (技術委員会分科会代表)
 南 宏一 (福山大学 工学部建築学科教授)

3. 見学会

- ・高層建物及び特殊建物(案) ・大阪市立中央体育館
 八幡屋プール・大阪ドーム

4. 研究活動

- ・技術委員会の分科会活動として研究会を主催

分科会の種類…RC、PC・工業化工法、鉄骨、基礎、耐震設計、コンピューター、木構造・構造計画

5. 海外研修会

10月 アトランタオリンピック施設

6. 支部報

Structure Kansai 4回発行(No45, No46, No47, No48)

7. 他団体へ講師・委員等の派遣

- ・日本建築総合試験所…内田 直樹、山本 豊弘
- ・日本建築センター ー(被災建築物復旧計画評価・評定委員会)… 鶴岡 邦夫
- ・日本建築総合試験所 ー(被災建築物復旧計画評価・評定委員会)… 福山 国夫

8. 親睦会

- ・懇親会(5/29)、ゴルフ親睦会、囲碁親睦会

9. 関連団体との交流

- ・在阪建築関連12団体 等

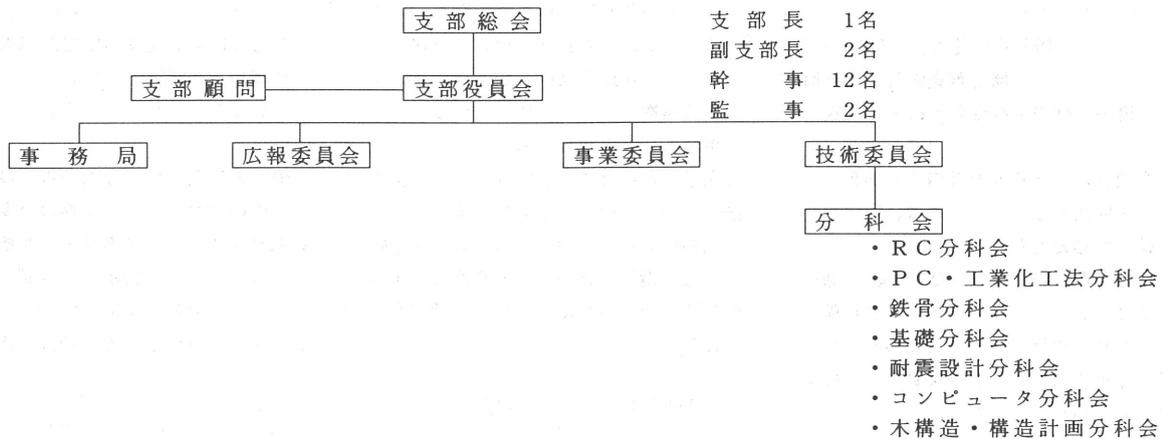
1994年度支部決算書(自1994年4月1日 至1995年3月31日)

科	目	予 算	決 算	備 考
収入の部	交付金収入	4,989,739	4,540,819	
	研究会費	100,000	0	
	懇談会費	700,000	474,000	懇親会費(5/25)
	受取利息	261	1,789	812(6/22),977(2/20)
	雑収入	10,000	48,000	書籍販売
	収入合計	5,800,000	5,064,608	
支出の部	消耗品費	30,000	21,000	領収書、伝票等
	印刷製本費	0	0	
	通信事務費	10,000	58,492	
	委員会費	1,000,000	1,171,268	各委員会
	研究会費	950,000	196,591	海外研修打合せ他
	調査費	0	0	
	懇談会費	700,000	658,143	懇親会開催費(5/25)
	会誌発行費	1,000,000	1,143,700	Structure Kansai No40,41,42,43,44
	名簿発行費	200,000	0	
	渉外費	300,000	185,861	関係団体との渉外、建通新聞広告他
	消耗品費	70,000	370,061	パソコン(10/12)339,038-封筒他
	印刷製本費	0	0	
	通信事務費	100,000	224,827	電話代他
	旅費交通費	0	0	
	雑費	200,000	121,859	四国杯、JSCA杯、調理学ジャーナル講座等
	総会費	100,000	125,274	1994年度総会開催費(5/25)
幹事会費	50,000	76,852	支部役員会運営費	
委員会費	100,000	110,680	事務局会議等	
賃借料	600,000	600,000	事務補助費	
予備費	300,000	0		
	支出合計	5,800,000	5,064,608	

1995年度支部予算書(自1995年4月1日 至1996年3月31日)

科	目	予 算	備 考
収入の部	交付金収入	4,748,920	
	研究会費	100,000	研究会会費等
	懇談会費	700,000	懇親会会費
	受取利息	1,080	
	雑収入	10,000	
	収入合計	5,560,000	
支出の部	消耗品費	30,000	
	印刷製本費	0	
	通信事務費	100,000	
	委員会費	1,100,000	広報、技術、分科会活動費
	研究会費	350,000	海外研修会
	調査費	0	
	懇談会費	700,000	
	会誌発行費	1,200,000	Structure Kansai 4回発行
	名簿発行費	100,000	
	渉外費	300,000	関係団体との渉外
	消耗品費	170,000	事務用品、封筒等
	印刷製本費	0	
	通信事務費	200,000	
	旅費交通費	0	
	雑費	200,000	
	総会費	120,000	1995年度総会運営費
幹事会費	70,000	支部役員会運営費	
委員会費	110,000		
賃借料	600,000	事務補助謝礼	
予備費	210,000		
	支出合計	5,560,000	

□ 1995年度支部組織



□ 1995年度支部役員

支部長

真塚 達夫(東畑建築事務所)

副支部長

板垣 勝善(大林組)
馬瀬 芳知(馬瀬構造設計事務所)

幹事

魚木 晴夫(シーアンドシー)
内田 直樹(日建設計)
宇藤 功(松村組)
大塚 穰(清水建設)
岡田 克幸(昭和設計)
川村 佳則(川村建築構造)
日下部 弘(鹿島建設)

辻 英一(安井建築設計事務所)

山田 裕治(山田建築構造事務所)

俣野 博(竹中工務店)

松谷 輝雄(鴻池組)

和田 勉(和田建築技術研究所)

監事

谷尾 俊弘(イオリ建築)
渡辺 勲(大成建設)

支部顧問

久徳 敏治(竹中工務店)
青柳 司(日建設計)
能勢 善樹(能勢建築構造研究所)

事務局

局長 近藤 一雄(東畑建築事務所)

大和田精一(日建設計)

岡本 達雄(竹中工務店)

樫原 健一(鴻池組)

角 彰(竹中工務店)

田中 利幸(竹中工務店)

八木 貞樹(大林組)

●事業委員会

委員長 日下部 弘(鹿島建設)

委員 大塚 穰(清水建設)

寺戸 芳久(日本シンエイ)

山田 裕治(山田建築構造事務所)

万谷 隆宏(安井建築事務所)

辻 幸二(鹿島建設)

●技術委員会

- 委員長 内田 直樹(日建設計)
 委員 須賀 好富(近畿大学)
 …RC分科会
 土居 健二(フドウ建研究)
 …PC・工業化工法分科会
 丸岡 義臣(竹中工務店)
 …鉄骨分科会
 棚橋 秀光(日建設計)
 …基礎分科会
 宇藤 功(松村組)
 …耐震設計分科会
 長井 国雄(鴻池組)

- …コンピュータ分科会
 東 健三(清水建設)
 …木構造・構造計画分科会

●広報委員会

- 委員長 岡本 達夫(竹中工務店)
 委員 日下部 一(竹中工務店)
 小島 達男(馬瀬構造設計事務所)
 高橋 俊二(日本総合研究所)
 多賀 謙蔵(日建設計)
 田中 宏(大林組)
 田中 道夫(熊谷組)
 西村 勝尚(大林組)
 長谷川 博(大林組)

- 花島 晃(日建設計)
 平野 忠人(竹中工務店)
 三原 清敬(三原建築構造設計事務所)
 三輪 哲也(塩見設計)
 山本 博(竹中工務店)
 板垣 勝善(大林組)
 樋口 元一(福山大学講師)
 丸岡 義臣(竹中工務店)

1995年 阪神・淡路大震災
 『行政の立場からの要望及び提言』

震災の爪跡がまだ生々しく残る神戸は遅く立ち上がってきています。色々な分野の人達の努力で、復旧・復興が進められている今日、行政の側の立場から今回の震災を通しての種々の要望・提言を述べていただきました。

神戸市住宅局建築部審査課
 構造審査係長 島谷昇

1. 復旧・補強・補修の行政上の取扱いについて

今回被災した建物を改修する場合、大規模な模様替えになるときは、建築申請手続きが必要となる。

従って取扱いについては現行法の適用を受けることになり、大阪の建築会館にできた日本建築センター大阪事務所で、被災建築物復旧計画評価委員会の評価を受けてもらうことになる。

◆大規模な修繕の程度を神戸市として取り決めておられるのか◆

大規模……というのは建築基準法で定められており、主要構造部の過半と言うことであるが、神戸市としては過半のカウントのしかたをかなり緩和設定しており、例えば柱についてみれば2階建の建物の場合1階柱の90%が改修・補強と言うことでも、2階柱は全て健全であり改修・補強の必要がなければ全体としては、柱として過半には達しないことになり、大規模には該当しなくなる。

また、大規模な修繕ということになれば、全て現行法の適用をうけるので、構造だけでなく意匠関係にもかなり難しい問題が多く出てくると思われる。

◆日本建築センターの評価は何件出て

いますか◆

現時点では6件評価委員会に上がっています。

次に、申請手続きの必要のない建物については、日本建築防災協会の指針をベースにして12条報告の形で報告をもとめている。12条報告が必要な場合の目安としては、5階建以上又は、延べ面積1000㎡以上の建物ということにしている。又、工事中に今回の地震に遭って、その後補強完了した場合については、その補強方法等について報告を求めている。

補強のレベルについては、日本建築防災協会の指針に書いている震度と被災度の対比表をベースにした補修・補強をしてほしい。

【補強等の要否の判定】

被災度区分 地震動の強さ (JMA震度階)	軽微	小破	中破	大破以上
Ⅳ(中震)以下	◎	△	×	×
Ⅴ(強震)	◎	○	△	×
Ⅵ(烈震)以上	◎	○	○	△

- ◎印：再使用するには、構造体に関する補修は要しないもの。
- 印：再使用するには、構造体に関する補修のみでよいもの。
- △印：再使用するには、詳細調査を行う必要がある。その結果に基づいて補修あるいは補強等により復旧を行うこととなる。
- ×印：再使用するには、詳細調査を行う必要がある。かなり大規模な補修あるいは補強による復旧が必要となる。

2. 今後の行政指導について

地域係数、設計指針の強化について

国からの文書の中でも軟弱地盤の指定をするという話がかなりきているが、この軟弱地盤は地盤種別で言う第3種地盤に相当することになる。

今回の地震でかなり被害を受けた地域

が軟弱地盤に当てはまるかという必ずしもそうではないので、即軟弱地盤に指定する事はできないと思う。

大正末期以降市街地となった地域の木造家屋が今回の地震でかなり被害を受けている。この第3種地盤の指定では埋め立てて30年を経過していないものとか、埋立深度が30m以上とかの地域が該当するという告示になっているので、この条件のものは軟弱地盤の指定が出来る。その地域の木造建物ではC₀=0.3にしなさいということになっている。

◆この様な告示は今回の震災後に出されたものですか。又、建物の重要度係数を取り決める動きはありますか◆

これは元々ある告示で、規制を強化するのならこの告示を使ってやりなさいという事だが今のところは特別に指定を

する予定は無い。又、市独自の設計指針の強化についても同じです。

次に建物の重要度係数ですが、これは神戸市独自で出来ることではない。営繕協会の設計指針では重要度係数があり官庁建物に対しては考慮する事が出来るようになっている。従って神戸市の営繕セ

クションではどうするかという事です。
検討はしている聞いていますが、まだ結論は出ていないようです。

何故そこまでする必要が有るのかという話も聞いている…。

◆学校のように公共の避難場所になるような建物は、少し重要度を上げたほうが良いと言う話はよく聞きますが◆

学校等は全部文部省の補助対象となるので、その辺のからみもあり文部省が、重要度係数等を使用することに対して国からの補助が出てくれば、神戸市としてもその方向に乗ってゆくと思う。

◆と言うことは民間レベルでは、例えば多くの人が集まる所は対象になっていないという事です◆

そうです。しかし最近になって構造設計の選択をするというような検討に入っているということも聞いている。

◆何かメニューのようなものがあって、施主はそのどれを選ぶかということですか◆

このあたりの話については神戸市独自で動ける話ではないと思う。

3. 既存不適格建物に対する行政指導について

新耐震以前の建物ということだが、これについても神戸市独自の動きはない。旧法の建物は耐震診断をして補強しなさいということや、今すぐということではないがまず、指導台帳作成や、巡回指導の実施等の話は国からきている。その中で重要度の高い建物（庁舎、病院、学校、被災後復旧活動の拠点となる公共性の高い施設、多数が使用する特殊建築物等）から実施したいという形になっている。

又、融資制度も考えているようです。

日本開発銀行、国民金融公庫等の低利融資とか。以前からあったのでは「特別償却制度」というもので、関東あたりが中心で地震の来る恐れのある地域で建物補強する場合に利用できる融資制度があるようです。

◆具体的には動いていないんですか◆

この話は、具体的には全然動いていない。又、台帳整理自体もまだ手がついていない。

◆既存不適格建物は何件位あるのでしょうか◆

件数は判らない。定期報告の建物であれば拾い出せると思うが、そこまではしていない。木造建物についても、特に何んらかの補強をしてもらうような動きはない。

4. 現場監理の重要性の見直しについて

基本的には行政は、報告書を求めることによって施工状況の確認をするのがメインになっている。扱っている物件の数が多いので、その他については現場を監理される工事管理者の方に委ねることになる。それ以外では、神戸市独自で作っている施工状況報告書を少し改定するぐらいを考えている。

現場監理も意匠が監理の中心となっている様なので、構造をベースとした現場監理は中心になっていない。

ここで、構造専門の人が現場を見るという形にすれば、今回のような鉄骨の溶接の欠陥とか、フープの欠陥等が事前に発見されて、改善されると思う。

◆資格問題として、設計監理の国の資格を作るとかの話が出ています◆

資格制度のほうは全く情報が入っていない。

◆この地震で監理というものがどれ程大事かということ、民間の人でもこれだけ報道されたりすると認識したのではと思いますが◆

検査体制で、施主が一般的な工事監理と違って、構造だけ独自に依頼するというシステムがあれば、信頼性・指摘内容もかなり違って来ると思う。

◆特に、神戸市、西宮市、芦屋市とか被害の大きかった地域で何か定めようといった動きは無いのでしょうか◆

動きとしてと、次のような話が出ているようです。Ds値、Fesの改正の検討とか、ピロティの修正、今回の工事での問題点をふまえての設計施工指針の見直し等。

新耐震そのものは、ある程度今回の地震でもったという考え方がベースとなるようで、大幅な改定は考えていないようだ。

5. 構造設計技術者に望むこと

今、委員会の事務局では、建築センター

の評価レベルが新耐震レベルなので、それに替わる具体策はないかという話が出ている。その委員会の中で、責任の無い形で相談だけするようなシステムを取れないかという検討と、JACAでそれはずれた部分を肩代わりしてくれないかという話が出ている

◆構造レビューという形で、多少複雑なものにはベテランの人が対応するとか…◆

新耐震レベル迄求めないものについてはJACAで技術指導してほしいし、耐震診断についても積極的にやってほしい。

◆耐震診断についてはこれからですか、東京とか静岡あたりではかなり盛んで、費用の目安まで書いたパンフレットまであるようです◆

地震が来るという話になっていますからね。

◆耐震診断に対してのパンフレットの様なものを作る話が出ていませんか◆

今は神戸市では、耐震診断より復旧の方で手がいっぱいなので、耐震診断返手が回らない。

6. 被害統計について

◆被害の状況についてはどうですか、報道ではよく出ていますが全壊建物が10万とか20万とか、かなり幅があるのですが◆

地震直後に、住宅局と都市計画局と応急危険度判定士で被災地をマップ作りの為に走り回った。そしてそのあたりのデータを、まとめて、国へ提出しているのでは、その辺から出回っているのではと思う。

◆被害マップの航空写真についてはどうですか◆

そのマップについては、先ほどの話の中での被災地を走り回って調査したものを、参考にしていると思う。

◆今、新たな確認申請の物件は増えていますか◆

全体で震災前の2～3倍になっている。その中で仮設建築物もかなり多くある。

◆以上で終わらせていただきます。長時間にわたってありがとうございました◆

会員紹介

竹野 富夫

- ① 馬瀬構造設計事務所
- ② 読書・歩くこと



阪神大震災は、設計業務の社会的責任の重大さを改めて認識させると同時に自然力に対して、謙虚に、真摯に、かつ、畏れを忘れずに、技術者は相対すべきものと痛感させられました。

多加 秀俊

- ① オリエンタル建設㈱
- 大阪支店建築部設計チーム
- ② ゴルフ・サッカー観戦



入社して23年、プレストレストコンクリート造を中心に構造設計に携わってきました。当時は計算尺と算盤で計算しておりましたが、現在はコンピュータ(ソフト・ハード)が加速度的に進歩しております。23年後の構造計算はどのような形で行われているのでしょうか？

伊澤 清治

- ① ㈱松村組・技術研究所
- ② 麻雀、ゴルフ、ドライブ



施工会社に入社して20数年、現場員、構造設計、研究開発と、主として構造の立場で仕事に従事してきました。最近では、構造の分野でも新しい考え方、新構法が出現して、経験のみで対処できる時代では無くなってきているようです。現在、少しの戸惑いを感じながらも、新しい技術に挑戦しています。よろしく、お願いします。

(編集後記)

地震から早や8ヶ月が過ぎようとしています。この夏の例年にない猛暑は、被災された方々に追い打ちをかけるような、きびしい現実をつきつけたことと思います。

JSCAも地震直後から会員諸兄の協力で、ボランティア活動に参加しましたが、復旧、復興は問題山積、これからの本番です。

構造技術者集団JSCAとして、復興の一端を荷なわねばと改めて思い直しています。(担当 小島、矢田貝)

白石 勝哉

- ① ㈱山田建築構造事務所
- ② パソコン



入社して今年で10年になります。今まではまさか関西に大地震などと考えていましたが、先日の阪神大震災の惨状を目のあたりにして、我々構造設計者の重責をひしひしと感じる今日この頃です。

これからは認識も新たに構造設計に取り組んでゆきたいと考えております。

正木 忠

- ① 馬瀬構造設計事務所
- ② スポーツ、散策



日ごろ運動することが少なかったので小学校のPTAのバレーボール部に参加して、週1回汗を流しています。運動して、すこし若がえった気持ちになります。

笹井 明

- ① 大和ハウス工業㈱
- 奈良支店



転勤で名古屋より奈良へ移転し、趣味の古建築巡りを再開しました。先日、入江泰吉氏の「奈良大和路」写真展を見て大感激し、それ以後カメラを持ち歩いています。写真の得意な方 御指導お願いします。

武野 朋子

- ① 巴建築設計事務所
- ② ものづくり



実務歴20余年、経験豊かな40代をめざしたいと願って来ましたが、理想と現実の較差に啞然としています。構造の分野のみならず異なった視点での主張も大切に考え、日常の設計活動を行なっていきたいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。

第23回 J S C A 会 成 績 表

平成7年5月17日(火)

於 伏見G.C.

参加38名 ★印 初参加

	氏 名	南コース	西コース	G R O S	H D	N E T	R A N K
1	中島 国 凱	47	41	88	15	73	優 勝
2	日下部 光 世	46	46	92	16	76	準 優 勝
3	安田 文 吉	48	44	92	16	76	3
4	後藤 文 吉	46	51	97	21	76	4
5	山本 豊 弘	49	48	97	21	76	5
6	馬瀬 芳 知	41	43	84	7	77	
7	奥村 三 代	39	46	85	8	77	7
8	丸岡 義 臣	55	58	113	36	77	
9	西原 昌 昌	50	50	100	22	78	
10	山口 和 成	47	48	95	16	79	10
11	宮野 禎 三	48	51	99	20	79	
12	★吉田 達 也	50	49	99	20	79	
13	渡辺 泰 昭	58	48	106	26	80	
14	平見 殖 彦	45	50	95	14	81	
15	山田 裕 治	51	46	97	15	82	15
16	寺田 徹 治	49	48	97	15	82	
17	三好 裕 治	54	57	111	29	82	
18	脇山 三 雄	51	60	111	28	83	
19	長田 正 雄	54	55	109	26	83	
20	谷 丸 正 英	51	50	101	18	83	20
21	★竹原 太 朗	47	46	93	10	83	
22	丈野 栄 三	51	51	102	18	84	
23	中島 三 久	60	49	109	25	84	
24	江西 修 一	48	51	99	20	79	
25	谷尾 俊 弘	51	57	108	23	85	25
26	岡田 昭 正	48	48	96	11	85	
27	梅木 信 正	48	48	96	10	86	
28	青木 仁 治	48	50	98	12	86	
29	★福島 睦 一	59	57	116	30	86	
30	松浦 英 一	58	57	116	30	86	30
31	勝 丸 彦 彦	56	58	114	26	88	
32	宮本 義 浩	47	52	99	11	88	
33	伊藤 孝 博	58	52	110	20	90	
34	渡辺 博 博	58	54	112	22	90	
35	竹ノ上 幸 一	62	52	114	24	90	35
36	新保 勝 浩	60	49	109	18	91	
37	五十嵐 定 義	63	63	126	29	97	BB
38	高橋 尚 尚	69	62	131	25	106	

ニアピン：馬瀬、梅木、松浦、平見 ベスグロ：馬瀬
 ドラゴン：青木、三好
 次回ハンデ：中島(国)12、日下部14、安田15
 平均ストローク：103.1

発行(社)日本建築構造技術者協会関西支部事務局
 近 藤 一 雄
 TEL・FAX 06(947)2601